

総務厚生常任委員会 9月9日

活力ある社会維持のために

第6次白鷹町総合計画の成果目標に対する進捗状況について説明を受けた。

町当局の説明

【概要】

白鷹町まち・ひと・しごと創生総合戦略は、平成30年度をもって第1期の5年間で完了したところであり、第2期では引き続き、「2040年に約1万5000人の人口確保」の展望に立ち、活力ある社会を維持する施策を展開している。

【成果目標の評価】

AとDの4段階評価を実施。A・B評価は51項目中41項目で、一定の進捗があった。C・D評価は10項目。対応策を検討し、目標へ向けた取り組みを強化し

ていく。

D評価の項目

- ① 森林経営計画策定の増
- ② 町立病院の収支の黒字化
- ③ 芸術祭参加率の増
- ④ 縁のある市町村との交流者の増
- ⑤ 人口の社会減の抑制
- ⑥ 技能検定特級合格者数
- ⑦ 若者の創業
- ⑧ 伝統工芸後継者の確保



質疑

低評価の目標変更は

委員 低評価のものは目標数値の変更を考えているか。

当局

コロナの影響の前に設定した指標であるが、影響が長期化すれば目標も含めて考えたい。

委員

伝統工芸後継者の確保は1名の目標があるが、深山和紙なのか。他にも業種があるのか。

当局

どの分野という想定はないが、さまざまな事業を通じて、次の代の担い手の可能性を探っていきたい。

町当局の説明

【趣旨】

インターネットに繋がることができる「モノ」、巨大で複雑なデータ、人工知能などの情報通信技術の活用により、町民の生活の質や産業分野の生産性の向上、安心・安全なまちづくりを推進するために策定するもの。

【推進期間】

令和6年度まで。

【基本的な考え方】

- 目標 情報通信技術の利活用による「共創のまちづくり」の拡大・加速
- 取り組み事項
- ① 町内産業の活性化
- ② 町民サービスの向上

ICT活用で安心・安全なまちづくりを

白鷹町ICT推進方針の概要(案)について説明を受けた。

質疑

デジタル格差への対応

委員 デジタル化による町民へのサービスの格差が生じないようにする具体的な取り組みは。

当局

すぐに対応ができない方には、従来の手続きと並行して徐々に移行し、町民に不安を与えないような周知もしながら進めていきたい。

委員

効率化になれば時間が生まれ、人が余ってくる。効率化した先の姿をどのように考えているか。



当局

効率化によって、事務処理の時間を減らし、町民と対話等をする部分に注力することが可能になる。

その他

- 鷹山地区拠点施設整備事業基本構想(中間報告)
 - 白鷹町地球温暖化対策実行計画(案)の運営状況
 - 白鷹町国民健康保険の運営状況
 - 第2期健康と福祉の里構想
- などについて説明があった。